

## ここ3ヶ月余りを振り返る

11月1日の「大阪市廃止・特別区設置」住民投票が終わり、大阪市が存続することになった。

大阪に移って3年近くになるが、「維新政治」とりわけ大阪市廃止の動きに向き合ってきた。昨年6月からは毎回、「法定協議会」を傍聴して、怒りを傍聴させて傍聴記などのレポートを数多く書いた。

ここ3ヶ月ほど、住民投票に向け、私なりに全力で「活動」してきた。こんなに集中して「活動」してきたのも最近では珍しい。「自分史」のひとつまとして、メモ的に書きとめておこう。

まず「大阪市・市民交流会」から。多様な市民団体とボランティアが集まり、谷町のターネンビル2階を拠点に活動を展開した。共同代表の平松邦夫・元大阪市長、浪速の経済人・中野雅司さん、事務局の皆さん、交流会参加の皆さんにお世話になり、多くのことを学ばせてもらった。

お役に立てなかったが、お盆の日から3回開催した「語ろうかい」がとりわけ印象に残る。この場で『住民と自治』に寄稿した拙稿を紹介した。とりわけ介護に従事しながら、毎日どこかで街頭宣伝を続けた人など、多くの人との出会いがあり、元気と刺激をもらった。

議会を傍聴するなかで、住民投票に関する陳情と住民監査請求を行った。9月7日に提出した住民監査請求は、NHKニュースでも大きく取り上げられた。10月14日に「陳述」を行い、まもなく結果が出るはずだ。

大阪市主催の住民説明会に応募して、10月3日のメルパルク会場に参加した。トップバッターとして長めに発言し、松井市長と吉村知事が答えにならない回答を長めに行った。反論できないのが残念。

11日の「学者の会」記者会見にも参加して、大阪市廃止に警鐘を鳴らした。

住民投票が近づくなかで、大阪市立大で学生さんにチラシを配り、大学周辺と自宅近くでポスティングした。そして住民投票前日に南森町ですこしスピーチ、当日は投票所前でスタンディングを一人で行った。

ここ3ヶ月ほどは、住民投票のことを片時も忘れたことがない。それは毎朝の私のレポートにもあらわれている。ささやかな「活動」の中で数多くの人と出会い、多くのことを学んだ。

その成果を今後の大阪市研究、大阪の持続可能なまちづくりに活かしていきたい。

(2020年11月4日)

